

北辰星

凡三百六十一座一千七百七十三星、以作方圖、名曰天文成象圖、此圖參氏三宿改距、今新法所用、星與即今所用全相同、之恒星黃道經緯度、鈐依儀象考成表、及近歲新測數、採用二十八宿距星黃道經緯度、更加黃道歲差、求寬政九年丁巳之數、以爲曆元宿鈐云、

〔運步色葉集〕保北辰シ

〔和爾雅〕天文北辰ホカシ北極也、又云天樞ト

〔物類稱呼〕天地北辰、ほくせん北極と稱するもなな、じうごがぬ星なり、上總國にてひとつのほしと稱す、

〔塵袋〕北辰北極ト云フハ、別ノ星歟、同星歟、

天文師ノシルベキコトニヤ、爾雅ニハ北極ハ北辰也ト云ヘリ、コノ説ニヨラバ同星也、北辰ノ五星トテ五星ノツバキタマヘル上ニ、左右ニ二ツ、四ノ星アリ、コレヲ四輔星ト云フ歟、五星ノ中ニ北辰星アリ、コレゾノイタレルベシ、北辰、北君、元鏡、元宿、北天、コレヲ北極ノ五星ト云フニヤ、同星ナレドモ、ツバケテ北辰北極ト云コトツ子ノ事也、神分ノ詞ニ、四禪、八定、天王、天衆ト云フガ如シ、八定ノ中ニ四禪モコモリタレドモ、コトハカハリテ多少オナジカラネバ、云ツバクルナラヒ也、就中コノカミ北辰ト云フハ、タマソノ主ヲアグ、伴ヲバ云ハズ、北極ト云フニナレバ、伴ノ星モミナコモレバ、主ト伴トヲ云フ心地ニモヤアラム、北辰、妙見、尊星王、太一、天一、大帝、大雲、星光、并水曜、吉祥天、コレラ一々ニクサリ合ヒテ異説繁多也、

〔中右記〕寬治八年三月一日壬申、早旦出河原、謝北辰、

〔吾妻鏡〕三十六寬元三年九月廿三日乙卯、寅刻辰星犯恒星、相去ニ寸

〔北窓瑣談〕三一駿河國府中七間町挽物屋長左衛門は、天文の心得も有る人にて、北極星を測り見るに、府中の人町にて測ると、富士山の八合目にて測るとは、凡三度半を差となり、富士山にては三十九度に及べりと語りけると、如意道人物語りき、